

2025年7月13日 第二礼拝

説教題「私たちを立ち上がらせる力」使徒言行録4章1～22節

主任牧師 加藤 誠

「しかし、ペトロとヨハネは答えた。『神に従わないであなたがたに従うことが、神の前に正しいかどうか、考えてください。わたしたちは、見たことや聞いたことを話さないではいられないのです。』(使徒言行録4:19～20)

主イエスが語られた「種蒔きのたとえ」に出てくる「種を蒔く人」は、おかしい種の蒔き方すると思いませんか。どうして良い土地だけでなく、道端や茨の生えている土地にも種を蒔くのでしょうか。「農業の基本は土づくりだ」と語られた農家の方を思い出します。丹精込めて肥料をつくり、土地を整える。それが農業の基本だとすると、この「種を蒔く人」はその基本を知らないように見えます。

しかし、そこに主イエスの大切なメッセージがあるのです。「種を蒔く人」＝主イエスは、御言葉の種を蒔くに際して土地を選ばない。あらゆる土地に種を蒔く。人間の目には「カチンカチンの痩せた土地」「茨だらけで可能性がない土地」に思えても、主イエスは大いなる実りの可能性を見て種を蒔かれる。今、石ころだらけで、茨が生えていて、種が育たないとしても、神が「時」を捉えて、その痩せた土地を御言葉の命の実りを豊かにもたらし土地を変えていかれるからです。

今朝読んだ使徒言行録4章で目覚ましい働きをしているペトロやヨハネは、最初から良い土地であったわけではありません。命の御言葉である主イエスを理解できず、信じ切ることが出来ず、眠りこけてしまうような、頑なで固い土地でした。しかし、主イエスが「彼らの信仰が無くならないように」祈り続けてくださり、十字架から逃げた彼らが隠れていた部屋の中にまで乗り込んでいって「聖霊を受けよ」と愛の息吹を吹きかけてくださった。そして旧約聖書を解き明かしを受けて、ただ上からの力を祈り求める者とされ、そこに聖霊が注がれた時に、彼らは「イエス・キリストの名で立ち上がり、歩く者」とされたのです。そしてエルサレムの真ん中で十字架のキリストの救いを語る証言者とされ、そこに三千人(2:41)、五千人(4:4)の実りが起こされていったのです。ペンテコステの前、主イエスの名で一つのところに集められたいた弟子たちが120人居たようですから、まさに「種まきのたとえ」の三十倍、六十倍、百倍の実りが起こされたのです。このように主イエスが語られた「種まきのたとえ」と使徒言行録で起こっていることを重ねて読む時、どんなに痩せて頑なな土地にも神の働きが起こされることを信じて祈り続ける主イエスの姿が見えてくるのです。

今朝、一緒に読んだ場面は、先週の使徒言行録3章でエルサレム神殿の美しい門に座っていた生まれながらに足の不自由な男をペトロとヨハネが「イエス・キリストの名」で癒した出来事の続きの場面です。一人の人が、生まれてから四十年苦しんで

きた病が癒されて、躍り上がって神を賛美する者とされた。みんなで喜びを分かち合
ってよいことであるはずなのに「問題視」される。なぜか。ペトロたちが「イエス・
キリストの名」で癒したからです。指導者たちにとって「イエス・キリストの名」は
自分たちが十字架で処刑した男の名であり、その名で神の恵みの出来事が起こされ
たのでは自分たちのメンツが丸つぶれ。そんなことは決してあってはならないこと
でした。今も昔も権力者は自分に都合の悪いことは誤魔化し握りつぶしてなかったこ
とにしようとします。ただ今回の癒しは多くの人の前で起きたために、癒し自体をな
かったことにできない。それで二人を脅して「今後イエスの名で語るな！」と命じた
のでした。その脅しに対する二人の言葉が明快です。「神に従わないであなたがたに
従うことが、神の前に正しいかどうか、考えてください」（19 節）。権力者を前に、
腹が座っていて微動だにしない。誤魔化しだらけの人間の言葉にではなく、真実の
神の言葉にのみ従う信仰が明確です。特に「わたしたちは、見たことや聞いたこと
を話さないではいられないのです」（20 節）の言葉は、見たこと聞いたことさ
えも誤魔化そうとする権力者たちを前に、強烈な皮肉になっています。指導者
たちが唯一出来たことは、彼らをさらに脅して釈放することでした。

毎日曜夕方 4 時から 30 分、礼拝堂で「聖書輪読と黙想」が行われています。聖書
を一章ごと輪読し、しばし黙想するだけの小さな小さな集まりです。日曜日の一日を
感謝して、その最後に聖書に静かに聴き、御言葉を受け取って家路につきたいとい
う有志の思いで始まりました。先週 6 日の「聖書朗読と黙想」では、ルカ 21 章の「
終末の徴」の段落が心に深く響きました。「人々はあなたがたに手を下して迫害し…
わたしの名のために王や総督の前に引っ張っていく。それはあなたがたにとって証
をする機会となる。…どんな反対者でも、対抗も反論もできないような言葉と知恵
を、わたしがあなたがたに授ける」（ルカ 21・12～15）。「これは使徒言行録の
ペトロたちにそのまま起こったことではないか！」と思いました。主イエスは使徒
言行録の出来事をあらかじめ約束されていたのです。とすれば、ペトロたちはこの
主イエスの約束と祈りの力によって立ち上がられ語られたということです。今朝、
私たちが目にしているペトロやヨハネたちの目を見張るような働きぶりは、彼ら
自身の力、勇気、知恵ではなく、弟子たちが御言葉にふさわしい土地に耕される
ことを信じて、御言葉の種を蒔き続け、祈り続けてくださった主イエスの恵みの御
業なのです。

私たちは毎週の礼拝に何のために集まるのでしょうか。幸いだけでなく不条理な苦
難あふれる世界のただ中で、聖書の十字架のキリストに思いを集中させ「イエス・
キリストの名」で立つ信仰をいただき、各々の暮らしに遣わされていくためです。
この世界で私たちを立ち上がらせ、神の国のシャロームに向かって歩ませていく
信仰を今朝もいただいて、ここから出かけていきましょう。